

## ウィリアム英王子夫妻へのジャマイカ人の公開書簡

ジャマイカ擁護グループ

去る3月末、英国のウィリアム王子夫妻がカリブ海のジャマイカを公式訪問しました。それに先立って、ジャマイカの有識者100人（ジャマイカ擁護グループ）が夫妻にむけて公開書簡を発表しました。以下はその全文です。

[Open Letter from Jamaican Advocacy Group Requesting Prince William & the Duchess of Cambridge Kate apologizes for UK Colonial Past \(jamaicans.com\)](https://www.jamaicans.com/open-letter-from-jamaican-advocacy-group-requesting-prince-william-the-duchess-of-cambridge-kate-apologizes-for-uk-colonial-past)

私たちは、世界的なパンデミックの渦中にあり、ロシア・ウクライナ戦争によるもう一つの危機にも備えなければならないこの時期に、あなた方がわが国を訪問するのはいかなるものかと大変心配しています。多くのジャマイカ人はあなた方の訪問のことを知りません。というのもわが国では、植民地時代の過去を引き継いだ社会的・経済的な困窮が続いていたため、コロナ禍の影響はとりわけ恐ろしく、人々はその対処に四苦八苦しているからです。

あなた方の訪問が、祖母であるエリザベス2世の戴冠70周年（プラチナジュビリー）とジャマイカ独立60周年をともに記念する祝賀の一環として行われるというのはどういうことでしょうか。私たちには、エリザベス2世の在位70年を祝う理由はありません。なぜなら、彼女や前任者たちの指導の下で、人類史上最大の人権の悲劇が続いたからです。

彼女は1952年2月に即位しましたが、その14年前の1938年、ジャマイカ人労働者たちは、非人道的な労働や生活条件、その扱い、すなわち今日まで続く痛ましいプランテーション奴隷制の遺物に反対して蜂起しました。あなたの祖母は、70年にわたる王位在任中、英国によるアフリカ人の人身売買、奴隷化、年季奉公など、植民地化の全期間を通じて、私たちの先祖に加えられた苦痛を癒し、償うためのことは何一つしていないのです。

実際、2015年9月30日、キャメロン英首相（当時）はジャマイカ議会の両院合同会議で演説した際、「奴隷制の恐怖」を認めたものの、それを廃止した英国のリーダーシップなるものを強調し、私たちに向かって「このつらい遺物から離れて前に進みましょう」と呼びかけました。私たちは憤り、首相に謝罪を求めました。ジャマ

イカのパーソン前首相や、西インド諸島大学副学長ヒラリー・ベックルズ卿、またジャマイカ工科大学関係者が公開書簡をだし、ヘンリー・モーガン博士なども新聞紙上で謝罪を求めました。私たちはいまでも、不快で無神経なこの発言に対する謝罪を求めています。私たちは忘れてはいません。キャメロンが正しく指摘したように、「この傷は非常に深い」のです。したがって、私たちは、在位 70 周年記念式典には参加しません。

しかし、英国による植民地支配からの解放 60 周年は祝います。私たちは、植民地時代の遺物が重荷になって、本来ならもっとできたはずの進歩ができなかったことを悲しく思っています。それでも偉大なジャマイカ人たちが達成した多くの功績を祝います。彼らは、後ろ向きの植民地根性を拒否し、自信をもって、大きなハンディを克服し成功したのです。また、英国の専制支配と忌まわしい人権侵害に対して勇敢に戦った国民的英雄や自由の戦士たちに思い起こし、祝福します。私たちは、この祝典に参加する皆さんを歓迎します。

いつか英国王室を率いることになるお二人は、英王室が何世紀にもわたって蓄えてきた富を引き継ぐことになりませんが、この富の中にはアフリカ人の人身売買と奴隷化によるものが含まれています。したがって、あなた方には英国王室とジャマイカ人との関係を再定義するまたとないチャンスがあるのです。もしそうするのであれば、まず初めに謝罪と償いと賠償の必要を認識されるよう、強く訴えるものです。お2人と将来の世代にとって、このことがなぜ重要で必要なことなのか。その理由はたくさんありますが、英国の植民地化からの解放 60 年に鑑みて、私たちは 60 の理由をリストアップし、添付しました。

謝罪と賠償に関する裁判手続きを始めることがなぜ必要なのか。この 60 の理由をよくよく考えて頂きたいと思います。奴隷補償法(1837年)のもと、奴隷商人たちには補償がなされ、一部の支払いは 3.5%の政府年金に転換され、これは 2015 年まで続きました。しかし奴隷にされたアフリカ人の子孫には今日まで何の補償もなされていません。これは全く法外なことではないでしょうか。

ジャマイカの先住民にたいする搾取、大西洋を横断したアフリカ人の人身売買と奴隷化、年季奉公、植民地化。英国が犯した人道に対する罪はこれだけではありませんが、癒しと許し、和解と補償のプロセスを始めるには、これに対する謝罪がまず必要である考えます。

どうかそのように行動し、「ごめんなさい」と言ってください。若い世代を大胆にリードして、以下のような未来を作ることができるという希望を与えてください。

「ある民族が優れていて、他の民族が劣っているという哲学は、最終的かつ永久に信用されず、放棄される」、「どの国にも一流と二流の市民は存在しない」、「人の肌の色は、目の色ほど重要ではない」、「最後に、人種に関係なく基本的人権がすべての人に平等に保証される」。

これらの言葉は、エチオピアのハイレ・セラシエ 1 世が 1963 年 10 月 4 日に国連総会で行った演説で述べたものですが、その後、(ジャマイカ出身の世界的なシンガーソングライター)ボブ・マーリーが "ウォー " という曲の中で使って知られるようになりました。ラスタファ運動の実践家でもあったボブ・マーリーは私たちの代表ともいえる存在で、人権、平等、賠償とアフリカ帰還運動を唱えて、広く知られています。

これらの言葉を使って、あなたの世代、そして次の世代のために、平和のための新しい物語と現実を創造してください。

(了)

【翻訳 田中靖宏】